

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2020 年度（後期）指定公募

「市民の集い開催への助成」

完了報告書

テーマ

「看取り」での経験を語る会

～在宅看取りを振り返る～

開催日

令和 3 年 6 月 26 日（土）

申請者：星川 絵里佳

所属機関：クローバーホスピタル

提出年月日：令和 3 年 7 月 29 日

「看取り」での経験を語る会の完了報告

『在宅看取りを振り返る』をテーマとし、プロローグ講演「在宅看取りを考える」、症例発表 1 例、患者家族との対談のプログラムで開催した。患者家族が参加し、看取りについて感じたことを直接語ってもらった。本会は、2017年12月、2018年5月、12月に引き続き4回目の開催となる。

1. プロローグ講演「在宅看取りを考える」

市民講座開催の目的を語り、近年のもしもの時の話し合いの現状や家族の介護や死の経験している割合等を紹介した。



2. 症例発表

はじめに医師から、愛しい人が「家で死にたい」と希望したらみなさんはどう、思われますか？と参加者に投げかけた。コロナ禍で入院患者への面会ができず、終末期の話し合いの重要性が高まっており、自宅での看取りをより一層考える時代へとシフトしていると話があった。看取りが近くなればなるほど、入院と在宅診療で、できる医療行為に差がなくなってくる。様々なサポートが存在し、自宅介護でも人手を補える時代であると説明した。自宅看取りの症例を関わった多職種がそれぞれの立場から紹介した。

訪問診療に同行する看護師からは、患者概要、訪問看護師との役割の違いについて説明し、時系列で患者の容態変化と気持ちの変化について語った。患者が事前に身辺整理をし、「お別れのご挨拶」という手紙を用意していたことに参加者の関心が集まった。

その後、ケアマネジャー、訪問看護師、訪問リハビリのセラピスト、デイケアの介護士、薬剤師とそれぞれが看取りについて発表した。ケアマネジャーからは、訪問診療介入前の状況説明があった。住んでいた鹿児島から、長女がいる神奈川へ引っ越しとなったが、鹿児島と同じように生活したいという本人の希望とそれを尊重したいという家族の意向があった。遠方に住むパイロットである長男の活躍を見学されたり、奥様の誕生日をお祝いされたりして最期まで笑顔で過ごされた写真が紹介された。

デイケアの介護士からは、自宅看取りは家族の覚悟と思いの共有が大切だと話があり、参加者からの共感が高かった。薬剤師からはあまり知られていない訪問薬剤師の説明も行った。在宅での看取りに係る様々な職種やサービスを紹介し一般市民へ向けた啓発としたが、アンケート結果からは、「成功事例だけではなく困難事例も教えて欲しい」との意見もあった。



3. 患者家族との対談

患者家族（妻・娘）の体験談は、在宅診療部長石渡医師との対談形式とした。「はじめは病院に見放された気がして在宅医療に良いイメージがなかった」と話された。次第に患者本人が望む生活ができること、様々なサポートを受けられることが分かり最後は自宅で看取って良かったと語った。移り変わる心情と、看取った後の気持ちを直接語ってもらった。



4. まとめ

アンケートでは、「ご家族の穏やかなお話がよかったです。つらいことは忘れてしまい、よかったことだけ記憶に残るのが在宅医療なのかなと思いました。」「看取りの事例はその人の数だけあると思うので他の事例も聞いてみたいです。」「症例発表が参考になりました。今回はあまり介護力がなくても自宅看取りができるということがわかりました。」等の記載があった。

今回はコロナ禍にもかかわらず、定員を超えた応募があった。入院中の面会ができないことや突然亡くなってしまうニュースが多く報道され、看取りについて考える機会が増えたためだと考えられる。感染防止対策のため席を離して設置したため参加人数に制限が生じた。web 配信等を使ってより多くの方が参加できるよう工夫する必要がある。引き続き在宅看取りに関する講座を開催し地域の市民への啓発を続けていく。

最後に、公益財団法人 在宅医療助 勇美記念財団よりご支援いただいたことに深く感謝したい。

以上

※本会は「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団」の助成による。